

三葉虫

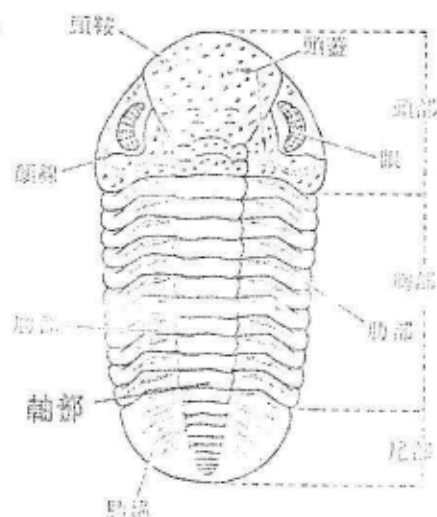
←過去へ 4500 590 245 現在へ→ (百万年) 65 0

先カンブリア代	古 生 代						中生代			新生代	
	カンブリア紀	オルドビス紀	シルル紀	デボン紀	石炭紀	二疊紀	三疊紀	ジュラ紀	白亜紀	第三紀	第四紀

三葉虫は今から約5億9000万年前から約2億4500万年前までの古生代という時代に、海の中にすんでいた生きものです。古生代の初めのカンブリア紀という時代にあらわれて、次のオルドビス紀に種類も数もふえて大繁栄をしました。その後、だんだんと種類も数もへってきて、古生代のおわりにすがたを消してしまいました。三葉虫は、まさに古生代を代表する化石と言えるでしょう。

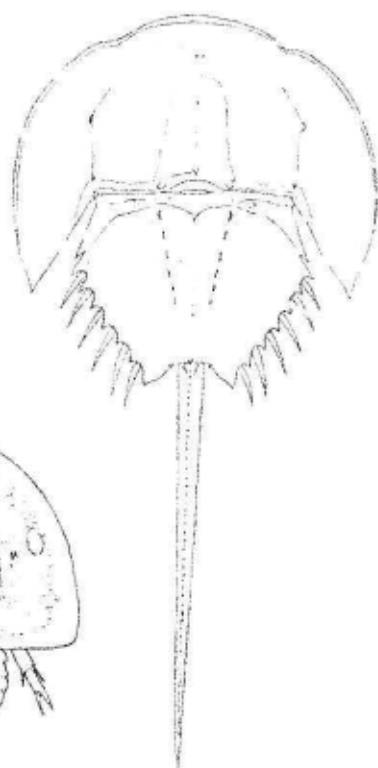
三葉虫は、右の図のように軸部と2つの助部からなっているので“三葉虫”とよばれています。今、生きている生きものの中では、エビやカニ、クモなどの節足動物とよばれているもののなかまで、なかでも、カブトガニという生きものに近いなかまと考えられています。カブトガニは現在、日本では九州や瀬戸内海にすんでいます。

◀三葉虫の部分の名称▶



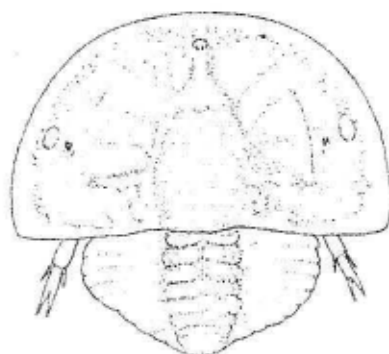
今までみつがっている三葉虫の中で最も大きいものは長さ約75cm(ウラリカス)、最も小さいもので1cm弱(ペロンオプシス)と大きさもさまざまで、形もトゲの多いもの、眼の大きなものといろいろなものがあります。そして、その種類は約1万種にも達します。三葉虫の化石では、ときどきまるまったものがみつがります。これは、外敵から身を守るための防ぎよの姿勢ではないかといわれています。庭の石の下でよくみかけるオカダンゴムシも指でつついてみるとまるまって身を守ろうとしますね。

三葉虫の化石は、富山県内ではみつがっていませんが、近くでは新潟県の青海町、岐阜県の上宝村と福井県の和泉村からみつがっています。



②

今年度の特別展・「南米ポリビアの化石展」でも、たくさんの三葉虫が展示されています。特別展は、昭和59年10月6日(土)から昭和60年2月17日(日)までです。



◀カブトガニの幼生▶ ▶カブトガニ▶



国立科学博物館

〒100 東京都千代田区千代田 1-1-1

TEL 03(5561)2111 FAX 03(5561)3111

三葉虫の化石は、富山県内ではみつがっていませんが、近くでは新潟県の青海町、岐阜県の上宝村と福井県の和泉村からみつがっています。